

大賞 国土交通大臣賞

人がつなぐ雁木のまちの歴史景観（大町小学校6年生の総合学習）

■活動範囲：新潟県上越市（上越市高田地区）

■応募者：特定非営利活動法人街なみ Focus、あわゆき組、上越市立大町小学校（6年生）

■活動の概要

上越市高田に城下町が開かれてから400年、豪雪地の市街地には雁木の街並みが今日でも残されている。雁木は道路沿いの軒先（私有地）に屋根をかけたもので、雪や雨にぬれずに通行できる空間が連続して、安全な通学路であり、住民の助け合いとゆずり合いの気持ちが形をなしたといえる。しかし、近年は中心市街地の空洞化や車社会の進行により、雁木の連続が途切れてきた。

雁木の形を残すだけでなく、子供たちが地域を支える人々と積極的に交流することで、地域の歴史と誇りを体験するために、「ひと」がキーワードになるまちづくりを目指している地元の大町小学校6年生と、雁木のまち歩きとワークショップ、手作り作品の展示と発表会、雁木景観の魅力アップを目指した切干大根づくりを実施した。作品づくりの活動は、地元ケーブルテレビでも放映されており、これらの「人とつながる」活動に注目して、小学校と雁木の町と地元住民との交流が深まっている。



大町小学校の生徒が製作した「角巻トンビ人形」を町家の内部に公開展示した。

■審査講評

上越市高田には、城下町が形成されて以来400年、日本一長い延長16kmの雁木が残されている。豪雪という厳しい風土の中で、人に対する思いやりとゆずり合いの精神を育んできたこの雁木という民地の歩行者空間は、個性的な町並みを形成するだけでなく、高田の人たちの生活を伝える貴重な文化資産と言える。

この雁木を保存し次世代に伝えるために、特定非営利活動法人街なみフォーカスやあわゆき組等の市民団体は、こども達に「角巻トンビ体験」や「雁木の干し柿・切り干し大根作り」等楽しい体験プログラムを提供している。その中でも大町小学校の総合学習では、6年生が週2回1年間をかけて、高田のまちと雁木に関して多くの関係者から講義を受け、住民への直接ヒアリングや、さらには歴史的町並みを有する他都市への修学旅行を経て、雁木保全のための提案を行ってきている。

雁木を題材に、地域の専門家や住民の協力を得ながら、こどもたちが体験的に町並みやその伝統的生活を学ぶ景観教育は極めて優れており、都市景観大賞にふさわしい活動である。（卯月）

優秀賞 （公財）都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞

骨寺村荘園遺跡の景観保全活動を通じた地域づくり事業

■活動範囲：岩手県一関市（本寺地区（骨寺村荘園遺跡））

■応募者：本寺地区地域づくり推進協議会

■活動の概要

本寺地区は「骨寺村」と呼ばれた中尊寺の経蔵別当の荘園であり、中世に描かれた2枚の絵図の風景が現在も色濃く残る地区である。全国の中山間地と同様に、過疎高齢化の進展はこれまで以上に進んでいくことが予想される中、地元住民は、生産性や効率性を重視する圃場整備よりも、豊かな農村景観を保全する道を選択した。（景観保全と営農改善の両立を目指した景観保全農地整備事業の選択）

地元の想いは、中世より連綿と続く農村景観を良好な形で後世へ継承することこそが、現代を生きる我々の責務であり、使命であるという一点に尽きる。

現在では、地元住民で組織する「本寺地区地域づくり推進協議会」が中心となり、次世代を担う子どもたちや市内外の皆さんと協力しながら、土水路の泥上げ作業や草刈り作業、区画の小さな田んぼでの農作業といった地道な活動と併せて、地域の歴史や文化を活かした魅力あふれる地域づくりを、これからも継続していく。

■審査講評

平成18年に重要文化的景観に指定された地域、本寺地区での豊かな農村景観を保全する取組みである。中世の荘園世界が描かれている絵図と現存する地形も変わらない小区画水田などを日本の伝統的農村風景を高齢化が進む中で圃場の大規模化を行わず、本寺地区地域づくり協議会を発足させて一つ一つの課題をクリアしながら進めてきている。四方を山々に囲まれた盆地内には50cmの高低差を利用した水路は、絵図に描かれているのと同じで雪の中の視察でも曲がりくねっていることが確認できる。さらに田屋敷のイグネや散居している家々、社や小さな祠が所要所にまつられているが、それらの意味を地域の児童・生徒に伝えていくだけでなく、他地域の大学生、市内外の骨寺村荘園オーナー、ボランティア等からの協力を得ながら体験型交流事業によって地域の宝を地域で守り伝えていく活動が続いている。当初は景観を阻害する不法投棄ごみの除去作業やパトロールから始まるが、現在は、史跡管理道刈り払い作業、市道・河川の草刈り作業、春季・秋季の土水路の土砂浚渫作業を通して景観保全活動をするだけでなく、中世からの米送行事などを通して「生活をまもる」「農業を守る」「景観を守る」「情報を発信する」などの視点から活動運営システムを検討し、必要な施設づくりなど多様なセクターとの協働による未来を切り拓いていく地域づくりは次の世代へと引き継がれると高く評価したい。（小澤）



田植え体験交流会の様子。小さな田んぼで昔ながらの手植えを体験。